

漁況予報 いわし

第130号

2005年7～8月漁期
(2005年7月 日発行)

＝ 概況 ＝

【まいわし】

主要定置網における5月のマイワシ総漁獲量は、0.6トンで前年同期の100トンを大きく下回る漁獲量となりました。6月に入っても低調な状況が続く、総漁獲量も1トン未満に留まりました。(前年同期300トン)

各定置網とも、中羽マイワシ(17～18cm)主体にヒラゴ・小羽マイワシが少し混じる魚種組成となりました。

佐島地区のまき網は、まとまった来遊がなかったことから、2ヶ月を通して1日のみ1隻による3トンの大羽マイワシの水揚げしかありませんでしたが、餌イワシではカタクチイワシに若干ヒラゴが混じるようになりました。

【かたくちいわし】

主要定置網における5月のカタクチイワシ総水揚げ量は、1000トンを超えるものとなり、昨年同期(670トン)を上回り、非常に高水準の水揚げ量となりました。

6月になると来遊量は落ち、水揚げ量も鎌倉・腰越地区を中心に、計400トン(速報値)と昨年同期(540トン)を下回りました。

佐島地区のまき網は、断続的に餌イワシとして漁獲しましたが、餌が売れない事情(周辺の餌場も多く活かして)もあり、水揚げするケースもありました。

魚体は2ヶ月とも11-12cm台の小型～大型成魚が主体でしたが、7cm前後の未成魚も1～2割混じるようになってきました。

【しらす】

東部を中心に好漁でスタートした相模湾のシラス漁ですが、ゴールデンウィークまでは良かったものの、5月中旬から来遊水準が落ち始め、中旬から6月一杯は散発的な漁模様となりました。

この傾向は、隣県の静岡県も同様でした。愛知県は5月下旬に大きく落ち込んだものの、下旬から6月一杯は昨年並みの漁獲水準で推移しました。

本県の場合、前号でも書きましたが、カタクチイワシ成魚が大挙来遊すると、やはりシラス漁には良くない結果が今年も出ました。丁度シラスの漁獲水準が落ち始めた5月10日過ぎから、長井～腰越の定置網で連日10トン/統を超えるカタクチイワシの水揚げを記録するようになりました。シラス漁が悪くなる要因は、推定の域を出ませんが、共食い、シラスの群れを散らす等が考えられます。

＝ 予報 ＝

まいわし

今漁期は、中羽イワシ主体にヒラゴ(0歳魚)が若干混じるでしょう。

今漁期の水揚げ量は、定置網を主体に約30トンと予測されます。

* 縦軸：主要定置網+まき網の水揚げ量

かたくちいわし

今漁期は、小型成魚及び未成魚が漁獲の主体となります。

今漁期の漁獲量は、約355トンと予測されます。

しらす

今漁期は、5～6月生まれのカタクチシラスが漁獲の主体となります。

今漁期のシラスは相模湾内で生まれたものが中心になります。

今漁期の漁獲量は、約195トンと予測されます。

過去5年の7・8月漁期の漁獲量
と今漁期の予測量

